

双子姉妹デビュー 原将人映画ライブツアーTOKYO/YOKOHAMA

3月29日(金) アップリンク 吉祥寺 プログラムA
 3月30日(土) 横浜シネマ・ジャック&ベティ プログラムB
 3月31日(日) 横浜シネマ・ジャック&ベティ プログラムA
 4月1日(月) シネマハウス大塚 プログラムS
 +プログラムB'+プログラムA

映画ライブもしくはアンチ・レトロスペクティブ宣言 2024年3月1日 原将人記

私、ハラは18歳で監督デビューして今年で映画監督歴56年である。
 23歳『初国知所之天皇』で音楽家としてデビューして音楽家歴51年である。
 半世紀以上経験を積んだ監督もしくは音楽家なら、本来ではレトロスペクティブの回顧展になるのだが、あえてアンチ・レトロスペクティブ宣言をする。すなわち『初国』以降の自ら音楽を手がけた作品を映画ライブするのだ。

それによって過去の作品は、ライブとして生成され、<いま><ここ>に最新作として、映画原初のエネルギーに照射され蘇るのだ。ちなみに、FILMIXライブは映画が内包するサウンドに、映画館内で私とサポートミュージシャンが演奏を加えていく試み。SONGSライブは付いている音楽を取払い、SEのみ生かして館内でSONGS(歌)を加えていく試み。
 本日ここに映画ライブ宣言、すなわちアンチ・レトロスペクティブ宣言をする!!

FILMIXライブ



by HARA Family & 遠藤晶美

1999年、国旗国歌法案の夏。原と真織は生後半年に満たない長男・こぼろを連れて京都、広島、大分、沖縄と、日本探しの旅に出る。そして旅の最後、沖縄に亡命したくても亡命できない亡命者の姿を重ねる。オリジナルのデジタル(センター)と左右の8mmフィルムは火事で消失したが、原が火傷を負って救出したフランクフルトのデーターを復元し、そこにFILMIXライブする!
 第1回フランクフルト国際映画祭観客賞受賞作品



原が『ザ・ベスト・オブ・HARA 8mm』と言う本作は原念願の8mm・シームレス・3面マルチ作品。見る者は境界のない3面の8mm映像を彷徨ううちに自身の記憶に到達する。第一章『ベルグソンを巡る旅』では映画の始まりとも言える19世紀の車窓風景。第二章『東京・ベルリン・マラケシュ』では1974年の各都市の風景(ベルリンの壁も)、『ノスタルジア2009』では軍人だった原の父が語られる。(本チラシの写真はイメージ)



2022年に原と真織の共同監督で全国公開された『焼け跡クロニクル』の原 真織監督によるディレクターズカット・ヴァージョン! 原が音楽に特化し、数多の曲を加えたFILMIXライブ・ヴァージョンでもある! 2018年の原家の火事と焼け残った8mm Filmによって家族のクロニクル(過去と未来)が見えてくる!



昭和30年代、日本のある山村にテレビが映るまでを描くミュージカル・ファンタジー。プロローグの昭和天皇巡幸の映像から始まる本作は、最終戦敗戦ではなく、日本の戦後を独自の視点で描いた唯一無二の作品。
 2013年ゆうばり国際ファンタスティック映画祭特別賞受賞

プログラムA [双子暦シリーズ]

▷アップリンク吉祥寺(1時間繰り下げ上映)
 横浜シネマ・ジャック&ベティ/シネマハウス大塚
 16時00分 双子暦記・私小説 ※上映前、舞台挨拶
 18時10分 焼け跡クロニクル ディレクターズ・カット
 19時45分 双子暦記・星の記憶
 21時10分 トークショー:原将人、原真織 & 宇田川幸洋
 ※鑑賞券・半券をお持ちの方はどなたでも鑑賞可(席数に限りあり。先着順入場)
 終演:21時40分

プログラムB [昭和恋文シリーズ]

▷横浜シネマ・ジャック&ベティ
 16時00分 あなたにみてほしい SOAR ※上映前、舞台挨拶
 17時55分 MI・TA・RI!
 19時40分 M&M マテリアル&メモリーズ
 20時40分 トークショー:原将人、原真織 & 宇田川幸洋
 ※鑑賞券・半券をお持ちの方はどなたでも鑑賞可(席数に限りあり。先着順入場)
 終演:21時15分

プログラムS [原将人10代作品集]

▷シネマハウス大塚
 9時30分 おかしさに彩られた悲しみのバラード
 9時45分 自己表出史 早川 義夫編
 ※2作品とも監督原 将人によるライブ解説付き

プログラムB' [昭和恋文シリーズフルヴァージョン]

▷シネマハウス大塚
 10時30分 あなたにみてほしい SOAR ※上映前、舞台挨拶
 12時20分 MI・TA・RI!
 14時00分 M&M マテリアル&メモリーズ
 ※『初国の旅』を含む110分ヴァージョン

単独作品 大人 2500円
 学生(アンダー22)/シニア/障がい者割引 2200円
 各プログラム(3作品)通し券 6000円
 ただしプログラムSは無料(他の鑑賞券・半券を提示)



若松孝二監督の死から始まる本作を、今年13回忌にあたる大いなる先達に捧ぐ。62歳にして双子の父となることがわかった原は生まれてくる姉妹のためにブラックバイトを始める。さらに二つの事故でモーターゼーションの洗礼を受ける。社会批評と宇宙論の絶妙な重なり! そして、赤児映像に重なる四年後の双子姉妹の短歌の朗読! 映画の多層性! 映画の愉悦! [原将人Key&Vo./遠藤晶美Gt]



『双子暦記・私小説』の姉妹編にして、最新作。双子の星からやって来る双子姉妹は高速に近い航行のため到着までに地球時間で15年を要したという、ル・グイン的プロローグから始まり、直立、二足歩行、そして入学までの双子暦8年を追う。宇宙と人類の歴史! ビッグバンと記憶! [原将人Key&Vo./遠藤晶美Gt]



『かつていいことはなんてかつご悪いんだらう』製作中の早川 義夫に10.21新宿騒乱を重ねた原初のドキュメンタリー 1969/16mm/白黒/

1968年第一回フィルムアートフェスティバルTOKYO グランプリ & ATG受賞。私立麻布高校在学中、高校二年から三年への春休みにクラスメイトと作った原の監督デビュー作品 /16mm/モノクローム/13分

アンチ・レトロスペクティブ宣言

本上映会は決して回顧展ではない

原 将人 最新作

双子暦記 星の記憶

Futago-Rekiki Hoshi-no-Kioku